

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	玉名市のサードプレイス実現プロジェクト	玉名市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	空き家をバス停に活用したサードプレイス化		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	チーム文化		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	3 名		
代表者（公開）	本田拓海		
メンバー（公開）	谷川あさひ 横路梨央		

#### 【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

**（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。**

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

#### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

〈応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください〉

玉名市は高齢化が進んでいるが、高齢者の移動手段となるバスの便数が少ない。また、住民が気軽に集まって交流できるスペースがない。

〈この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・〉

〈「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます〉

〈よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です〉

〈課題〉

玉名市も他の市町村と同様に高齢化が進んでおり、市の人口は減少傾向にある。しかし、高齢者が移動手段として用いるバスが少ないなど、公共交通の利用が不便である。そのうえでバス路線の拡充は必要だが、ここではバスを利用する経験に注目する。なぜなら徒歩での移動に困難を抱える高齢者の場合は、バス停に向かうことそのものに苦勞するからだ。ただバスに乗るためだけに遠方のバス停に行き、かつ少ない運行本数のなか、長時間路上で待つ経験は決して良いものとは言えないだろう。このことはバス利用を遠ざけ、結果的にバス利用の減少を招き、バス路線の拡充を難しくしている要因の一つではないかと考えられる。

〈アイデアの内容〉

私たちは、バス停をただの待合所として利用するのではなく、さまざまな機能を複合的にもった場（サードプレイス）として提案する。

### 空き家を利用したバス停機能の複合化

〈バス停の活用方法〉バスを待っている間の待合所、に加え、

- ・ 食事や団らんの場（イベントや行事後の休憩や余韻を共有しあう場、二次会のための広場）
- ・ 世代間交流の場（学生が学校帰りにふらっと寄ることができ、待ち時間に勉強や住民と交流する。）
- ・ 情報交換の場（地域の企業などが広告や雑誌等を置き、イベント等のPRを兼ねた地域情報の交換ができる。）



**バス停が地域住民同士の新しい交流の場となる。**

## 〈内容の詳細〉

玉名市で数多くみられる空き家を利用し、それらを活用した複合型バス停を設置する。

玉名市は 2020 年に 800 席を超える大ホールがある「玉名市民会館」をオープンした。ただ、コンサートなどに参加したあとその余韻を楽しむ、参加者同士が語り合う空間が少ないのが実情である。また市内中心部には有名なラーメン店がいくつもあるものの、定食メニューなどを提供するいわゆるランチができる場所が少ない。それに対し、高瀬地区ではカフェやワンコインランチを提供する一部の店舗が賑わいをみせており、そのような食事・団らん空間への隠れた需要があると考えられる。

また玉名市は周辺地域に比べて多くの高校、そして大学がある。つまり、ある意味で学生街としての性質を持っている。しかし、学生と住民が交流する空間は限られ、せっかくの若い力が十分に地域づくりへ生かせていない。

そこで商店街等の空き家・空き店舗を利用し、そこにバスの待合所や、食事・団らん、また世代間交流、さらには情報交換機能をもった複合バス停を設置することを提案する。これにより、バス停はただバスを待つ場所ではなく、ランチを食べながら語り合う場やイベント・行事の帰りに「二次会」を行う場となったり、学生が学校帰りに勉強しつつ地域住民と交流する場となったりすることが可能になる。このバス停は、新たにカフェ等の経営を考えるひとや地方移住を希望し、新たなチャレンジをしたい若者たちに経営して貰う。これにより、カフェからの収入で持続的な運営が可能となる。

このアイデアは、バス路線を充実したい市役所、バスへの利用者を増やしたいバス会社、カフェをオープンしたい経営者や移住者、そして学生・住民にとってお互いに利益がある。特にバス停への移動に苦勞する高齢者にとっては、バス停への移動が苦勞ではなく、一種の楽しみになるのではないだろうか。

## 空き家を活用したバス停のサードプレイス化

### 〈食事・団らん機能〉

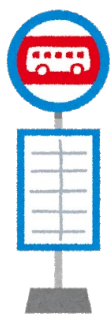
玉名市の生産物を利用した低価格ランチや、ドリンク、スイーツ提供

### 〈情報交換機能〉

雑誌や新聞等の閲覧、企業広告やイベントチラシ等の配布、無料 WiFi

### 〈世代間交流機能〉 学生用のフリーデスク

### 〈バス停の待合機能〉



## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

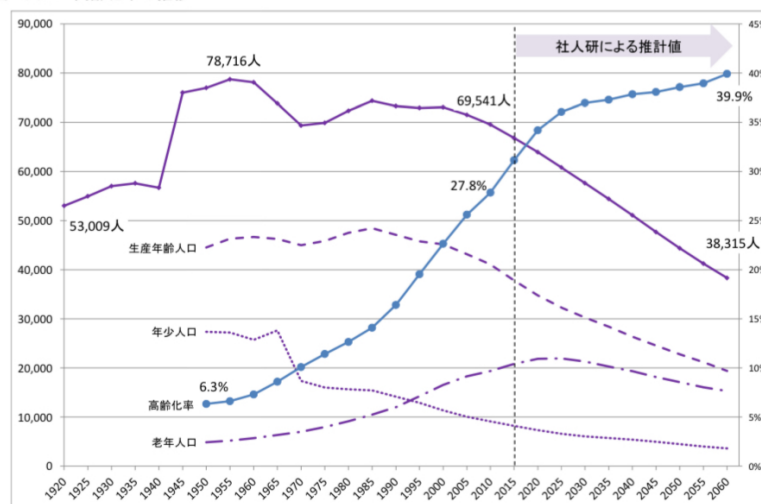
<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

2020 年に策定された玉名市人口ビジョンによると、高齢化率は 2005 年に約 25%だったものが、2019 年に約 34%となり、2040 年には 39.9%となると推計されている。また生産年齢人口は、2005 年に約 22%だったものが、2019 年約 17%となり、2040 年には約 13%まで落ち込むと考えられている。一方で世帯数は 1995 年に 21,459 世帯だったものが、2015 年には 24,474 世帯と増加している。

これらのデータからは、玉名市も他市町村と同様に、今後のさらなる人口減少と高齢化により、さらなる世帯数の増加、すなわち独居老人の増加などが予想される。それによって社会サービスの拡充、高機能化を進める必要があると考えられる。しかしながら厳しい市の財政状況のなかで、行政のみによる実現は難しいと思われ、市民がお互いに助け合う仕組みや複数の機能を複合化する視点が重要だといえる。

それに対し、私たちは玉名市を訪れ現地をフィールドワークするなかで、地域住民が集まれる場所が少ないこと、若者が外を出歩いていないこと、空き家・空き店舗の多さを感じた。これは、住民が世代によって町への関わり方が異なり、別々のコミュニティにばらけていることを感じさせた。そのうえで公共交通としてのバスを見ると、バスの運行本数の少なさはもちろん、バス停という存在の薄さを感じられた。このバス停に高齢者が長時間が待たされている姿は、それだけで切ない。しかし市民会館が新設されたように、玉名市はイベントや行事の数は少なくないと思われ、実際は多くのひとが市内を移動していると考えられる。見えない彼らの存在をバス停という場を集めることができれば、若者や高齢者をはじめ住民同士の交流を促進できるのではないかと考えた。

図 人口・高齢化率の推移



出典：総務省「国勢調査」（1920～2010）、国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」（2015～2060）

出典：玉名市人口ビジョン（2020）

（参考文献）

玉名市人口ビジョン, 熊本県玉名市, 2020.3, 最終閲覧日 2020 年 12 月 10 日,  
[https://www.city.tamana.lg.jp/dl?q=73566\\_filelib\\_424e976b99563eb7f11627668f2b0539.pdf](https://www.city.tamana.lg.jp/dl?q=73566_filelib_424e976b99563eb7f11627668f2b0539.pdf)

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

## ＜実現する主体＞

アイデア実現の主体は、バス会社及びカフェの経営者となる。そのうえで、市役所及び大学（学生及び研究者）がその仲介及びサポートを行う。

## ＜実現に必要な資源（ヒト・カネ・モノ）＞

—ヒト—

複合施設を現実するうえで、最も大切なことは関係者の理解を得ることだと思ふ。バス会社、カフェの経営者、市役所、地元住民、学校などの理解が必要であり、そのために大学生や研究者が間に入り、住民参加のワークショップなどを行いながら、理解と協力を得ていくことを考える。その結果、食事・団らん機能以外の世代間交流機能や情報交換機能をサポートする運営ボランティアグループの設立を目指す。

—モノ—

新たな試みであるため、大きな予算のねん出は望みづらい。カフェで用いるテーブルや椅子などの設備は出来る限り、市内の空き店舗から譲り受けるなどして物品を入手する。またその入手過程が住民との関係構築の機会にもなる。

—カネ—

バス停自体としては多くの費用は発生しない。そのため、主に食事・団らん機能を提供するカフェの開業資金、空き家の改装資金が必要である。空き家の改装として 500 万円、カフェの開業資金として 500 万円を想定する。このうちカフェの開業資金はカフェの経営者が負担し、改装費用をバス会社が負担し、その一部を市役所が補助する。またクラウドファンディングを用いた資金調達を検討する。

## ＜実現までの流れ（計画表）＞

アイデア実現について、次表のようなスケジュール感を持っている。

年	月	計画内容・活動予定
2021	3	玉名市のバス停・空き家の状況を再確認
	4～5	玉名市役所及びバス会社等との折衝、調整
	6～8	新バス停に関する住民参加型ワークショップの開催（全 5 回） カフェ経営者の募集開始（～ 9 月）
	9	利用する空き家・空き店舗の仮決定 カフェ経営者の決定
	10	改装ワークショップを含む空き家の改装開始（～翌年 2 月）
	11	運営ボランティアグループの募集、立ち上げ
	12	広報活動の開始（チラシの配布、学校等への案内）
	2	オープンへ向けた準備作業、テレビ、新聞等での告知
2022	3	バス停・空き家を活用したサードプレイスのオープン